

## 遠雷や ウイーンは 遠くなりにはけり

元日本人会会長(ジェトロウィーンセンター所長) 新村 明

夏の夕暮れ、もう二昔も前のことなので大部分が忘却のかなたなのですが、本当に楽しかったあの時のことを、一涼の夕立を待ちながら思い起こしてみました。

真っ赤な林檎を頭の上のにのせた少年の挿絵が鮮烈だった「ウィリアムテル物語」この中に登場する敵役、悪代官ゲスラーから、始めて「オーストリア」という国があったことを知ったのは遠い昔の何歳のころだったのだろうか。

私がウィーンに赴任する時、「ウィーンですかいいですね、スイスでしょう」と何人かの人に言われておどろきました。チロルならまだしもウィーンがスイスだなんて、ウィーンは有名だけれどオーストリアはどうも日本では違うらしい。例のオーストリアワインにエチレングリコールを混入したことが発覚した事件では、当のオーストリアワインの輸入がストップしたのはもちろんですが、金額的にもっと大きな被害を蒙ったのはオーストラリアワインの方だったと言われています。

赴任早々に日澳両国経済交流の促進のために、日本から経団連のミッションが来られました。ソニーのMさん、東芝のSさん、興銀のKさん等々、経団連の副会長の方々を中心とした実に錚々たるメンバーでした。日本側のプレゼンテーションでは先ずSさんがスピーチされたのですが、オーストリアと言うべきところをオーストラリアと発言されたので、すかさず隣席のMさんが肘でSさんの横腹を軽く数回突付きながら小声で「オーストリアだ、オーストリアだ」と注意されました。Sさんも直ぐに気づかれて訂正され、その後は慎重にオーストリアと発言されていました。Mさんのプレゼンテーションではさすがに最初からオーストリアと間違いなく言われました。ところが4回目になったとき、とうとうMさんもオーストラリアと発言されてしまいました、でもご本人も気づかれず、訂正されることもなく進行し、次はどう発音されるかと半ばはらはら、半ば興味津々で聴いていたのですがその後残念ながら国名が出てくることはなく終了してしまいました。

これは先ほどのエチレングリコール入りワインの場合とは異なり、頭の中はもちろんオーストリアのことでいっぱいなのですが、口の方が勝手に日本人が言い慣れているオーストラリアになってしまうのでしょうか。身近に発音の類似した資源大国があるためにオーストリアはどうも日本では分が悪いようです。

ウィーンに冠される言葉と言えは言うまでもなく「音楽の都」です 実際その名のとうり期待が裏切られることは全くなく本当に音楽に囲まれた素晴らしい生活をエンジョイすることができました。私はさらにもう一つウィーンには「ダンスの都」の冠も被せてもいいのではないかと考えています。1, 2月のシーズンにはご存知のようにオペルンバルを頂点として、毎日どこか



ダンスパーティー「日本の夕べ」

1, 2月のシーズンにはご存知のようにオペルンバルを頂点として、毎日どこか

で職場、地域、職業等を主催者とする幾つかのダンスパーティーが開かれています。

その一つに「日本の夕べ」というのがありました、この日は大使ご夫妻を先頭にして順に日本人会の会長、副会長夫婦等が腕を組んで入場するという場面があり、家内と腕を組んで入場するというちょっと照れくさいこともありました。肝心のダンスは学生時代に習っただけで後はずーっとチークダンスでごまかしてきたので、これではまずいもう一度ちゃんとしたレッスンを受けなければとタンツシュウーレに通うことになりました。

日本ではソシアルダンスと言えは現在は熟年者の集いのように思われていますが、オーストリアでは逆に若い人ばかりなのに驚きました。オペルンバルのデビュータンクトばかりでなく、この国では一人前の大人として社会に認められるためにはダンスの素養が必要条件なのだたと悟りました。新社会人や新成人として認められるための準備として、若者は日本では先ず自動車教習所へ、オーストリアでは先ずダンス教室へというのが当時の印象でした。

私が赴任した時には日本人会は既に立派に確立、運営されており、理事会では驚くほど熱くなる議論が闘わされたこともよくありました。一方ゴルフ、カラオケ等楽しい親睦の会も多くありましたが、日本人だけのものでした。そこで日ごろからお世話になっていたOさんにもご尽力願って、ブルゲンランドで桜まつりを行いました。これは



ブルゲンランドの桜祭り

地元の人達との交流を図りながら、会員が買った桜の苗木にめいめいの名札を付けてドナスキルヘン、プルバッハ、ブライトンブルンの三つの村の街道沿いに植樹するもので大成功でした。また沢山のブルゲンランドワインを買い込んで帰ったのもいい思い出の一つです。あの桜は今どうなっているのかな。

山田洋次監督の例の「寅さんシリーズ」。もちろん日本で大人気の映画でしたが、当時のツィルク・ウイーン市長も大のお気に入り、市長の念願が遂に叶って唯一海外を舞台にした第41作「寅次郎心の旅路」のロケがウイーンで行われ、エキストラとして活躍された方も多かったはずで。

振り返って見れば、赴任時には強い緊張感を持って越えた東西の壁、既に40年に亘って東西を分断し一片の揺るぎもなく頑強でまだまだ続くと思われていた壁が、僅か3年で夢想だにしなかった崩壊の兆しを見せ始めるという激動の時期でした。

<新村 明 (にいむら・あきら) >

1986年7月～1989年6月、日本人会会長。85年にオーストリアワインスキャンダル、86年4月にチェルノブイリ原発事故があった。89年1月、昭和天皇崩御。3月オーストリア・ハンガリー帝国最後の皇后ツィタ・フォン・ブルボン＝バルマ崩御。

現在は日本合成アルコール(株)の社長を務めています。最近の原油価格の高騰で非常に苦しい状況に立たされています。このため、合理化の一環としてこの度本社を東京赤坂から川崎市浮島の工場に移しました。赤坂御用地前から川崎沖の埋立地へと急激な環境変化です。配所の月を眺めています。